**曹洞宗大本山總持寺・ニコニコ法話　　　　　　　　　　　　　　　　　　 令和6年8月**

**本山国際室主事 ゲッペルト昭元師**

僧侶として一つの禅語に強い影響を受けたことがあります。それは「黙如雷」です。「沈黙には雷のような力がある」という意味です。仏教とは関係がありませんが、私が生まれたドイツにも同じような諺あります。「雄弁は銀、沈黙は金。」（Reden ist Silber, Schweigen ist Gold.） 沈黙の方が雄弁より価値があるという意味です。

「黙如雷」の語源はというお経に由来します。維摩という方は古代インドの商人で、お釈迦様の在家の弟子でした。

ある日、大勢の菩薩やお釈迦様の弟子たちが集まっていました。絶対的平等となる悟りの境地に入るにはどうしたらよいかという問いに対して、菩薩たちは色々な見地を説きました。最後に文殊菩薩が「一切の法は言葉も届かず説明しようもなく諸々の問答を離れている」と説きました。そして次は維摩が答える番でした。しかし、維摩はただ黙って何も言いませんでした。それこそ、文殊菩薩が説明した「一切の法には言葉も届かない」をはるかにしのぐ大説法であり、価値ある一黙だったのです。

「黙」は一般的に「黙っている」や「言葉を発しない」という意味ですが、「黙如雷」の「黙」はただ黙っているのではなく、悟りを全身で現出しているという意味なのです。故に「雷の如し」なのです。

もともと、禅の根本のところは言葉や文字では伝えきれないと言われます。言い換えれば、禅というのは言葉を超える教えであり、言葉言語を使い切った世界とも言えます。逆に、禅文化の中で「黙」という言葉を使った色々な禅語があります。例えば、「黙茶三昧忘名利」（黙茶三昧名利を忘れ）。黙ってお茶を喫していると俗世の何もかも忘れることができるという意味です。皆さまは、黙って、ゆっくりとお茶をのむ時間はありますか…??

「黙如雷」という禅語は何百年も前に生まれた言葉ですが、私たちの生活のヒントにもなる言葉です。

現代では、だれよりも大きな声で話をしたり、自分の考えを強引に主張する人が正しいと思われることがよくあります。一方で、沈黙は弱さ、あるいは無知であると解釈されることもよくあると思います。しかし、今日でも、時には沈黙することが合理的と考えられています。

私たちの沈黙は「雷の如く」無限の力を持つことがあるのです。